



No. 64

The University of Tokyo Forests News

科学の森ニュース

December 10, 2013

発行：東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林

秋の一般公開、彩り鮮やか

森林に親しむのに適した秋になり、木々の紅葉も鮮やかになってきました。今年度は、10月6日の北海道演習林で神社山自然観察路の一般公開を皮切りに、樹芸研究所で温室特別公開、秩父演習林で自由見学とワサビ沢展示室の特別公開、田無演習林で休日公開、千葉演習林で紅葉の一般公開が行われました。参加人数は1万人を超える大規模なものから少人数のものまでいろいろですが、それぞれの特色を活かした目的やテーマを設定し、参加者の皆さんに楽しんで頂けるよう工夫を凝らしています。参加者からは、普段は親しむ機会の少ない森林の素晴らしさを知ることができた、野鳥や動植物を間近で見ることができた、植物の香りの複雑さに感動した、などの声が寄せられています。



①北海道演習林，10/6，38名②樹芸研究所，10/23，9名③秩父演習林，11/1-2，93名
④田無演習林，12/1，76名⑤千葉演習林，11/22-23，11/30-12/1，延5,656名

演習林教職員が相次いで受賞

8月にソウルで開催されたアジア太平洋水文水資源協会第6回国際会議で蔵治光一郎准教授（生水研）・五名美江農学共同研究員の発表「ハゲ山に森林を再生した小流域における年損失量と年蒸発散量の長期変化（和文題名）」が Outstanding Presentation に選ばれました。また9月に全国演習林協議会森林管理技術賞3賞を芝野伸策技術専門員（前企画部：特別功労賞）、鈴木祐紀技術専門職員（北演：技術貢献賞）、大村和也技術専門職員（秩父演：学術貢献賞）が受賞し表彰されました。さらに10月には（財）林学会の林業科学技術振興賞研究奨励賞を鈴木智之助教（秩父演）の「大規模な攪乱を経験した亜高山帯森林の回復過程における森林の動態の解明」と齋藤暖生助教（富士癒し研）の「山菜・キノコ・木質燃料の採取と利用の研究を通じた新しい森林文化の創造」が、11月には第62回北方森林学会大会の北方森林学会技術賞を遠國正樹技術職員（北演）の「森林内におけるハンディ GNSS 受信機の測位精度ー冬季と夏季の比較ー」が、それぞれ受賞しました。日頃の努力の成果がさまざまな形で評価されたもので、受賞したみなさんのさらなる活躍が期待されます。受賞内容の詳細はHPでご覧になれます。



左から順に芝野専門員、鈴木専門職員、大村専門職員

中国北華大学の劉先生ら来演

2013年9月24日から10月5日の日程で、中国北華大学の劉盛教授、李国偉講師と吉林林業庁の姜敏華さんが「日本の二段林の視察と意見交換」を目的に来日されました。富士癒しの森研究所、北海道演習林を現地視察されたほか、27日には、教育研究センターゼミで劉先生から「吉林省の森林と複層混交林経営」に関する話題提供をしていただきました。演習林の学生である陳さんの通訳のおかげで和やかな雰囲気の中で発表が進み、二段林の鍵となるチョウセンゴヨウという樹種の特長、日中の「二段林」育成の考え方や方法の違いを理解できました。劉先生のスライドには美しい吉林省の風景も多々あり、演習林の教員や学生にとっても新鮮で、非常に有意義なゼミとなりました。



蔵治准教授（左）と五名研究員（右）



吉林省の森林を紹介する劉先生

狩猟人口の減少などが原因でシカやイノシシが日本各地で大幅に増加する中、それらに寄生して吸血するヤマビルの生息範囲も拡大しています。彼らは人間にとっても非常に不快であることから、生息地では社会問題となってきました。千葉県内におけるシカの中心的生息地である千葉演習林内には昔からヤマビルが分布しており、その生態について詳細な調査がなされてきました。

ヤマビルには、その増加に歯止めをかける役割を果たす天敵が自然界に見つかっていません。しかも、ヤマビルは、普段は落葉等の裏側に隠れていて、動物の接近を感知したときだけ活動・接近します。このため、薬剤を散布しても当たらなかつたり隠れてしまつたりして、駆除することは容易ではありません。

現在、千葉演習林では民間企業と共同研究を行い、大量の捕獲ヤマビル個体を野外飼育ケースに放して薬剤を散布する実験を行い、ヤマビル駆除に有望な成分の検証を行っています。住宅・畑・遊歩道といった人間が主に活動する場所からヤマビルを駆逐でき、しかも環境への影響が極力少ないような薬剤の開発を目指しています。(當山啓介)



ヤマビル

演習林のイベント情報

詳細はホームページをご覧ください。各演習林にお問い合わせください。

【2013年9月】

- 10～12日 全学体験ゼミ「癒しの森を創る(夏)」☆(富士)
- 14日 あいち海上の森大学 森林環境Ⅰ
「森林の機能と水循環」(生水研)
- 21～25日 全学体験ゼミ「夏版伊豆に学ぶ3」☆(樹芸)
- 26～30日 総合科目「伊豆に学ぶプラス」☆(樹芸)
- 27～30日 全学体験ゼミ「森に学ぶ(伊豆)」☆(樹芸)

【10月】

- 6日 神社山自然観察路秋季一般公開(北海道)
- 12日 教職員向け特別ガイド「きのこに親しむ」◆(富士)
- 12～13日 せと環境塾 大人の林間学校
「森と水のエネルギーを考える」(生水研)
- 23日 第3回温室特別公開日(樹芸)
- 27日 公開講座「子ども樹木博士」認定会(田無)

【11月】

- 1～2日 紅葉の自由見学日・ワサビ沢展示室特別開室(秩父)
- 2日 鴨川市交流事業「野鳥の巣箱をかけよう」(巣箱作り)◆(千葉)
- 2日 東大教職員向け特別ガイド ◆(秩父)
- 3～4日 全学体験ゼミ「秋の奥秩父を巡る」☆(秩父)
- 6日 公開講座
「フットパスってなんだろうーみんなでできる道づくりー」(富士)
- 7日 犬山市立南部中学校◆(生水研)
- 9日 犬山研究林見学会と交流会◆(生水研)
- 10日 全学体験ゼミ「秋の奥秩父を巡る」☆(秩父)
- 10日 「みんなの森の樂校 2013」◆(生水研)
- 13日 愛知県立豊田東高等学校
矢作川「森と川の健康診断」◆(生水研)
- 15日 富良野地区合同ワークショップ ◆(北海道)

- 16～17日 総合科目「森のエネルギーを使いこなす」☆(富士)
- 17日 赤津自然観察会(生水研)
- 22～23日 秋の一般公開(千葉)
- 23日 コープあいちの森づくり ◆(生水研)
- 24日 東京大学「犬山の森」秋のふれあい自然観察会(生水研)
- 30日～12月1日 秋の一般公開(千葉)

【12月】

- 1日 秋の休日公開(田無)
- 1日 教職員向け特別ガイド
「リース・クラフト作り体験会」◆(田無)
- 1日 標石を探そう(生水研)
- 7～8日 総合科目「森のエネルギーを使いこなす」☆(秩父)
- 8日 影森祭(秩父)
- 14～15日 全学体験ゼミ「癒しの森を創る(冬)」☆(富士)

【2014年2月】

- 3日 森林博物資料館「一般公開」(千葉)
- 24～26日 全学体験ゼミ「雪の森林に学ぶ」☆(北海道)
- 24～28日 総合科目「伊豆に学ぶプラス」☆(樹芸)
- 25～28日 全学体験ゼミ「伊豆に学ぶ1」☆(樹芸)

【3月】

- 3～7日 総合科目「伊豆に学ぶプラス」☆(樹芸)
- 4～7日 全学体験ゼミ「伊豆に学ぶ2」☆(樹芸)
- 13～17日 全学体験ゼミ「伊豆に学ぶ3」☆(樹芸)
- 27～30日 全学体験ゼミ「森に学ぶ(伊豆)」☆(樹芸)

凡例…無印：一般向け ☆：学生向け ◆：その他
(<http://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/>)

科学の森の動植物紹介

ヤマトリカブト キンポウゲ科トリカブト属 学名：Aconitum japonicum

富士癒しの森研究所

9～10月にかけて、秋の気配が漂う林内の歩道脇に、紫色のきれいな花を数多く見ることができます。実は、これらはトリカブト（ヤマトリカブト）です。トリカブトは、花の形が舞楽の衣装の烏兜に似ていることからその名が付いたと言われていています。全体が有毒で、古来アイヌの人々は、特に毒性の強い根の部分の部分を矢毒として狩猟に用いていました。現在でも、芽吹きの際に、若葉をヨモギやニンソウと間違えて誤食する中毒事故が時々起ります。このように猛毒をもつトリカブトですが、漢方では乾燥させた根を「フシ」と呼び、薬としても利用されています。



ヤマトリカブトの花

名所 名物案内

岩樟園クスノキ人工林

樹芸研究所

樹芸研究所岩樟園に残る48haのクスノキ林は、樟脳生産のために地元の実業家が1908年から造営したもので、国内に現存するクスノキ林としては他に例を見ない規模です。

樟脳は、人類史上初の熱可塑性合成樹脂であるセルロイドの原料として重要で、1899年に台湾樟脳専売制が施行されて樟脳価格が高騰すると、全国にクスノキ造林ブームが興ったのです。しかし、1920年代に登場した合成樟脳にシェアを奪われ、1950年代には安全性の高いセルロースアセテートなどが登場して樟脳需要自体がなくなりました。今では樟脳もその専売制も知る人は多くありません。弊所ではシカ食害を受けにくいクスノキにもう一度光を当てる取り組みを始めています。



岩樟園クスノキ人工林の入り口
灯籠が歴史を感じさせる

科学の森ニュース (The University of Tokyo Forests News)

第64号 (No. 64)

発行日 平成25年12月10日

〒113-8657 東京都文京区弥生1-1-1

発行人 鈴木雅一

東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林広報情報委員会

編集人 後藤 晋

TEL 03-5841-5497 FAX 03-5841-5494

E-mail mori2010@uf.a.u-tokyo.ac.jp